

ACE2010 子どもたちのアートを通じた参加型国際交流の取り組み

ドン・スタージ¹⁾、福岡佑子²⁾、藤澤 正一郎³⁾

- 1) 徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部、
2) 徳島大学総合科学部人間社会学科科目等履修生、3) 徳島大学工学部創成学習開発センター

1. はじめに

徳島大学総合科学部人間社会学科欧米言語コースの講師と学生による中国、ベトナム、カナダへの教育交流旅行での経験をもとに、2008年、Art and Culture Exchange (以下、ACE) プロジェクトは始まった。ACE は子どもたちのアート作品を用いた、教育活動や社会貢献活動を基礎とした非営利・非政治・非宗教的国際交流プロジェクトであり、主な目標は、子どもたちの芸術的才能を発展させること、子どもたちの活動が他の人々の生活に良い影響をもたらせることが出来るのだと子どもたち自身に認識させることにある。主な取り組みとしては国内外の教育機関の協力のもと子どもたちのアート作品を収集し、展示・交流会を通して芸術、地域社会、外国語教育など幅広い分野間の連携および、様々な文化、世代間の交流を推進している。

2. 2009年度の取り組み

2009年10月には初の展示会を徳島大学で開催し、教育交流旅行を通して訪問した4カ国計6校から集まった子どもたちの作品を200点以上展示した。{Xa Dan School (ハノイ、ベトナム)、Doan Thi Diem School (ハノイ、ベトナム)、Ban Mu School (エンバイ、ベトナム)、Whispering Hills Primary School (アサバスカ、カナダ)、曲阜師範大学附属小学校(曲阜市、中国)、黒崎楽器(徳島県、日本)}

また2010年1月9日から21日にかけて、教育交流旅行等の活動報告としての展示会 DEAR FRIENDS を開催し、徳島大学ガレリア新蔵にて交流旅行の写真やビデオ、ACE の子どもたちの作品約200点、各国の民族衣装やおもちゃ等を展

示した。展示会の成果は以下のとおりである。①世界各国の写真やビデオを通し外国や異文化に興味を持つ機会を提供し、多くの人が外国に対して持つ先入観や偏見を再考するきっかけを創出した。②海外への教育交流旅行で共通言語が主に英語だったことから英語学習の意義の再考を提案。③日本と他国間の類似点・相違点を見つけることにより、他文化に対する認識を深める。④日本と他国の教育システムを比較して、日本の教育を考察する。

2009年度の活動はいずれも外へ向けて発信型であったことから、翌年度には本プロジェクトの中心にある子どもたち同士の相互かつ直接的な交流を企画することを目指した。

3. 2010年度の取り組み

3-1. ACE2010 in とくぎんトモニプラザ

2010年7月19日から9月15日にかけて、とくぎんトモニプラザにて展示会を実施した。これまでに収集したアート作品に加え、徳島の八万南小学校、鴨島小学校、鳴門教育大学附属小学校、オーストラリアのケンプシー西小学校から提供されたアート作品計約300点を展示した。



Fig.1 Exhibition

展示会初日のオープニングイベントには徳島の小学生とその保護者約30名が参加した。イベント内容は以下のとおりである。

- ① 世界の国について知ってみよう！(世界の国についての簡単なクイズ e.g. 中国の人口は？)
- ② 外国の人とお友だちになろう！(ブラジル人、中国人、スコットランド人との交流)
- ③ オーストラリアのお友だちからの手紙に返事を書こう！(ケンプシー西小学校からの手紙を読み、英語で返事を書く)
- ④ 英語を使ってお買い物してみよう！(全員で英語のフレーズを練習しその後買い物の模擬体験を行う)



Fig.2 Activities

①でいくつかの国を例として提示し子どもたちの持つイメージや知識を出し合い、②で直にその国の人と触れ合うという形式を取り、世界を身近に感じてもらった。③、④では実際に海外からの手紙へ返事を書いたり英語を使った買い物模擬体験を通して英語の実用性にも触れてもらった。日本人と外国人だけではなく、大学生と地域の子どもたち及びその保護者との交流が生まれたことも収穫のひとつであった。子どもたち、保護者からはイベントに満足し ACE の継続的な活動を希望するといった評価を得た。また約二ヶ月にわたる作品展示から多くの来場者に本プロジェクトを発信することが出来た。

3-2. ACE2010 in 松茂町立図書館

2010年11月20日には松茂町立図書館にて地元の子どもたちを招いたイベントを実施した。徳

島大学総合科学部人間社会学科で英語教育を専門とする学生が企画・運営を担当し海外への教育交流旅行時の写真や海外の子どもたちのアート作品を紹介した後、英語を使ったゲームを行った。イベントに先立ち松茂町立図書館では各国の子どもたちのアート作品を展示、イベント終了後も数週間にわたり展示を継続していただいた。

4. 考察

これらの展示・交流会がもたらした成果を以下に挙げる。①大学での研究活動が地域社会に公開され、大学が果たすべき地域貢献の一役を担った。②地域の協力を得て子どもたちを対象に国際理解教育、英語教育の実践を行った。③学生の企画運営能力は向上し学生自身の自信獲得にもつながった。④徳島の将来を担う子どもたちの国際理解への関心を高めることで今後の徳島の国際化につながることを期待できる。⑤イベント開催に際し徳島大学の留学生・研修生の協力を得た。徳島大学の日本人学生と留学生・研修生が共にプロジェクトを遂行したことは、双方にとって相互理解を深める有益な機会だったといえる。

5. これからの ACE

イベント運営においては、子どもの活発さに対して臨機応変な対応や、様々なケースに則った準備が求められる。今後目指すべき展開としては子どもたち同士のよりダイレクトかつリアルタイムの交流を行うことである。徳島での展示会を継続すると共に各参加校同士での交流を推進し徳島のみならず海外の参加校での展示・交流会の開催を目指す。

6. 謝辞

平成22年度の ACE2010 の活動は徳島大学工学部創成学習開発センターの支援のもと行われました。ACE2010 へご協力いただいた関係者の皆様及び参加してくれたすべての子どもたちに感謝の意を表します。